

## ルクセンブルク経済・金融情勢（2015年3月後半）

### 1. 経済

- 2014年第4四半期の被雇用者数は、前期比+0.7%、前年同期比+2.6%。2014年の被雇用者数は371,580名で、うち44.3%が越境労働者。（16日付統計局プレスリリース）
- IMFの使節団、ルクセンブルク経済に関する報告書の予備的結論を17日に公表。2015年度予算等における付加価値税率引き上げ等を評価しつつも、更なる増収及び支出減への取組みや、高齢化に伴う年金制度等の改革の必要性につき指摘。（17日付IMF）
- 2015年2月の失業率は7.0%（前月は7.0%、前年同月は7.1%）。（23日付統計局及び職業安定所プレスリリース）
- 統計局等の調査によると、ルクセンブルクにおける住宅価格は2014年の一年間で4.5%上昇。（25日付ヴォルト紙電子版）
- ルクセンブルクが本年後半にEU議長国を務める間を利用してルクセンブルクの産品等を紹介する「ルクセンブルク・ハウス」の運営をルクスエアー航空が行うこととなった旨政府が発表。ルクセンブルク旧市街において本年6月にオープン予定。（26日付ヴォルト紙電子版）
- 2014年のルクセンブルクの経常収支は24億9800万ユーロの黒字で、前年比約300百万ユーロの増加。（26日付中央銀行プレスリリース）
- ルクセンブルク政府観光局、2014年のルクセンブルクへの旅行者による宿泊数は2.7百万人泊で、前年比4.5%の増加。宿泊施設の稼働率も2%増加し、2014年は71%。米、蘭、独からの旅行者が増加。（26日付ヴォルト紙電子版）
- 米格付会社スタンダード&プアーズ社、ルクセンブルクの格付を「AAA」と維持し、見通しを「安定的」（継続）と27日に発表。（28日付ヴォルト紙電子版）
- グリアOECD事務総長、27日にルクセンブルクを訪問し、ルクセンブルク経済に関する報告書を公表。力強い金融セクターをはじめとして、ルクセンブルクは繁栄した開放経済であると評価しつつ、金融セクター強化を目的とした健全な市場規制や包括的なリスク評価の継続、金融セクター以外の経済多角化を促進するための研究開発支出やクラスター政策の評価の必要性について指摘。（27日付OECD）
- 2015年3月の消費者信頼感指数は▲3（前月は+1）。（30日付中央銀行プレスリリース）

●経済社会評議会の枠組にて政労使の代表者が欧州セメスターを議題とした対話を30日に実施。1月26日に引き続き同議題での2度目の会合。(31日付ル・コティディアン紙)

## 2. 金融

●統計局関係者、昨年12月から本年1月にかけて、ユーロ圏からルクセンブルクへの資金移動によりルクセンブルクにおける総預金高が4%増加した旨指摘。本年から銀行口座情報の自動交換が開始されるにもかかわらずの動きに、ギリシャ情勢を受けてルクセンブルクへ避難的に資金が移されている可能性があると分析。(27日付ル・コティディアン紙)

●英シンクタンクZ/Yenグループによる世界金融センター指数(毎年3月及び9月に発表)において、ルクセンブルクは世界82の金融センター中、17位(前回は15位)で、ユーロ圏では最も高い評価。(27日付ヴォルト紙電子版)

## 3. 政府

●グラメーニャ財務相、16日にファン・オフェルトフェルト白財務相とルクセンブルクにて会談。(16日付財務省コミュニケ)

●ベテル首相、19日及び20日、ブリュッセル開催の欧州理事会に出席。(19日付政府公報)

●財務省、ルクセンブルクによるアジアインフラ投資銀行(AIIB)への創設国候補申請が承認され、域外における初の創設国候補となった旨発表。(27日付財務省コミュニケ)

※ 当国政府機関の公表資料や各種報道等の公開情報を取りまとめたもの。